

## 減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク 第1回会合開催概要

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)

9月3日に、環境放射能除染学会との共同事務局で、第9回環境放射能除染研究発表会（WEB開催）の企画セッションの枠を利用し、知のネットワークの第1回会合を開催しました。会合は、第1部「減容・再生利用等の研究開発の進展」に関するキーノートスピーチと、第2部「これからのネットワーク化のめざすもの」をテーマとした座談会とで構成され、Web参加を含めて延べ150名以上の参加を得ました。

会合のとりまとめとして、座長の細見東京農工大学名誉教授※より、より良い取組を進めるためにも、これから復興が始まろうとしている地域の方々が加わって発言できる場が必要であり、関係者で目標を共有することが、それに応じた技術開発や情報発信、広報活動につながり、ひいてはそれが地域の復興の原動力になる旨の発言がありました。また、JESCO 小林社長からは、若い世代から学ぶことも多く、ネットワークの事務局として、今後こういった若者の輪を広げるとともに、復興に関係する様々なパートナーが自分事として考え、自由に発言できるネットワークを構築していきたい旨発言がありました。

※ 細見座長は本会合開催後、9月19日に急逝されました。当社の事業について、これまで格別のご指導、ご高配を賜りましたことに、厚く御礼申し上げますとともに、心からお悔やみを申し上げます。



第9回環境放射能除染研究発表会 企画セッション（第1回知のネットワーク会合）の様子

### 【資料】

資料1：JESCO 小林社長 冒頭発言要旨

資料2：知のネットワーク第1回会合 第2部座談会 発言要旨

資料3：知のネットワークに関するコンセプト図

## JESCO 小林社長 冒頭発言要旨

中間貯蔵・環境安全事業株式会社の社長を務めております小林正明でございます。

本日は web 開催となりましたが、お集まりいただきありがとうございます。

「福島の復興を考える知のネットワーク」第 1 回会合の開催に当たり、事務局を環境放射能除染学会と共同で担う立場から、一言ご挨拶を申し上げます。

除染、中間貯蔵、そして最終処分への道筋、これは一連の環境再生のプロセスで、これら全てが福島復興、特に創造的な復興の下支えの役割を担っていると考えております。

今、除去土壌の中間貯蔵施設への運び込みは、毎日 2600 台程度の 10 t ダンプがフル稼働するなど、環境省が地元にお約束した計画通りに進んでいます。当社 JESCO は、この全トラックの運行管理（GPS で追跡）を始め、環境省の発注支援から工事監督支援、施設や区域の維持管理など幅広い業務に当たっています。

さて、コロナ禍の中になりましたが、今年は常磐線が全線開通し、昨年の大熊町役場の帰町に続き双葉町でも一部避難指示解除があり、復興はいよいよ本格化しています。

岐路に立って今後のステップも睨みますと、次の 3 点を重要視して行きたいと思えます。

第一に、復興に向けて技術や知恵を結集していくことです。

震災以来、全国の大学、研究所、民間の技術を発掘し進化させてきた公募の技術実証研究。これを核に、知恵のプラットフォームを創っていきたいと思えます。大熊町エリアにオープンした技術実証フィールドは、中間貯蔵地域の中に芽生えた知恵の拠点ですし、次なる芽は、双葉町エリアで放射性廃棄物処理関係の実証施設として、いま計画が練られています。いずれも、関係者のネットワークを育てていくものと期待されます。

第二に、環境再生と復興についての幅広い情報を発信し、共有することです。

福島県各地の復興の取組と除去土壌を安全に管理する中間貯蔵施設は、繋がっていると思えます。復興にかける多くの人の思いと課題、元々この地域にあるポテンシャルや DNA、新たな道を切り開くアイデアや戦略など、内外から自由に持ち寄り共有したいと思えます。第三に、世代を超えて震災の教訓と復興の英知を継承することです。

最近オンラインのセミナーで出会った高校生が、震災後 10 年が経って自分たちが震災を知る最後の世代だ、後輩達に何を伝えるか考えている、と発言していました。私達大人にとっても忘れてはならないこと、この間培ったことは何なのか、若い世代に教訓として伝え、継承していかなければならないことは何なのか。改めて考えていきたいと思えます。

「知のネットワーク」という場で、若い世代の皆さんの斬新な発想にプロフェッショナルの方々が触発されたり、地域の歴史や成り立ちを辿ることで今後のあり方にヒントを得たり、今日お集まりの多様な分野・経歴の専門家や実務家の皆様が交流して、自由な発想や未来に向けた取組が広がることを期待しております。

相互の刺激や連帯が資料に示している様々な副次的効果（資料の 6 つの円、特に下の 3 つの円）を生み出すことを、「知のネットワーク」の目指すものとして、ご提案したいと思います。

本日は、「知のネットワーク」の大きな産声が上がりますよう、よろしくお願い致します。

## 知のネットワーク第1回会合 第2部座談会 発言要旨

## 【細見座長コメント要旨】

- ・ 震災から10年が経つが、本日参加した福島高専の小林さんのように当時の小学生だった若い世代のフレッシュな発想に触発され、これまで環境放射能対策や環境回復に取り組んできた方々がこのネットワークで交わり、お互いに刺激することで新しい反応が生まれていくことが期待できる。
- ・ より良い取組を進めるためにも、これから復興が始まろうとしている地域の方々が加わって発言できる場が必要であり、関係者で目標を共有することが、それに応じた技術開発や情報発信、広報活動につながり、ひいてはそれが地域の復興の原動力になる。
- ・ 様々な思いと力をもった人々が集まり、刺激しあい、一緒に取り組んでいくことが大きな力に成長し、よりより活動につながる。ネットワークを通じて思いをもった人と新たな世代が継続してつながっていけるよう、ネットワークとしての意味を深めて育てていくことが重要。

## 【森田環境放射能除染学会理事長コメント要旨】

- ・ 本日のお話を伺い、地域の方々と行政、研究者との間に大きな溝が存在することを改めて実感した。この溝を埋めていくには、新しい地域を創造するプロセスで、どういうものを作るのかを共有することが大事である。
- ・ その時にはコミュニケーションが大事だが、コミュニケーションが成り立つためには目標が一体化されないと難しい。(行政、研究者が) いわば夢をどうやって提案できるのか、あるいは、住民の方から提案をしていただいて、そこにどう接近することができるかが鍵である。
- ・ 今までのアプローチの限界として、住民の方々には、いきなり放射能が降ってきて誰がその責任を取るのかを含めて明確ではないという批判があり、サイエンティストを含めた行政には、この程度の放射能であれば生きていくには差し支えないから受け入れてもらうしかないというロジックがあった。
- ・ その2つを克服して、これから私たちはこういう社会を作りますということを、上手く、そして夢を持って語れるようにしていけると良いということである。

## 【大迫環境放射能除染学会会長コメント要旨】

- ・ 皆さんの話を聞いて、私からは、知のネットワーク作りのコンセプトみたいなものをご提案し、考えていきたいと思う。
- ・ 「知」という言葉にはいろいろな意味合いがあるが、環境を守る、環境マネジメントに対して必要な知識には「形式知」と「暗黙知」がある。

- ・ 形式知というのは科学や技術の知識の体系みたいなものであり、一方で、環境問題の解決には暗黙知が大事で、それは経験やノウハウや人の持っているポテンシャル、あるいは人と人との関係とか人と社会との関係の中で作られる、目に見えないがいろいろなことに役に立つ知識である。
- ・ 今後の「知のネットワーク」の意味合いというのは、技術や科学の知のネットワーク作りであるとともに、人、地域社会、あるいは信頼とか、そういったもののネットワーク作りというものを同時に考えていくということがコンセプトではないかと考えている。
- ・ 福島で苦難にさらされている地域の人たちがいる中で、それを地域の問題だけにせず、福島以外の人たちも含めて共有と共感を作っていくという、そういう役目のネットワークでもあり、それから、現世代と未来世代とを繋ぐためのネットワークとして、未来の目標を共有していくことが大事である。

#### 【小林社長 まとめのご挨拶（概要）】

私からは2点申し上げたいと思う。

- ・ 冒頭で若者への継承といったことを申し上げたが、今日は福島高専の小林さんから教えられることの方が多かったように感じた。本ネットワークの事務局としては今後、こういった若者の輪を広げられるように汗をかきたいと思う。全国には福島に関心を持ってきている大学生も多くいらっしゃると思うので、そのために汗をかくことを約束したい。
- ・ 2番目は、復興に関わってきている、あるいは関わっていきたくて考えているパートナーが色々いると思うが、この自分事として考えるパートナーの輪を広げていくことを進めていきたいと思う。その際は、自由に発言できるような雰囲気・ルールを作ることが大事なポイントだと今日あらためて実感した。お互いの理解が難しいということは今日の話でも出てきていたが、自由な場で対応していくことが出来て、そこが埋まっていけばネットワークの意味があると思う。また、視点を広く持つことも大事。私共だと中間貯蔵に視点が向きがちだが、地域を作っていくというような広い視点を持ちながら、目線は地元目線というところもポイントだと思う。

是非努力していきたいと思うので今後ともよろしくお願ひしたい。

以上

知のネットワークに関するコンセプト図

